



原子力安全部会企画セッション

- 継続的安全性向上：ステークホルダーにとっての意義
- 3月18日(木)13:00～14:30
- F会場 (Zoomルーム6)
- 座長：関村直人
- 進行の概要
 - 趣旨説明、山本章夫(名古屋大学)
 - 事業者の視点からの継続的安全性向上、伊原 一郎(中部電力)
 - 規制の視点からの継続的安全性向上、西崎 崇徳(規制庁)
 - 立地自治体の視点からの継続的安全性向上、山本 晃弘(福井県)
 - 社会の視点からの継続的安全性向上、勝田 忠広(明治大)
- 座長挨拶と趣旨説明：5分
- 講演持ち時間(各15分、合計60分)：簡単な質疑込み
- 会場を含めた意見交換：25分



企画セッションの趣旨

- 福島第一原子力発電所事故は、最新知見を取り込み、継続的に安全性を向上させることの重要性を改めて明らかにし、再認識させるものであった。
- 事故から10年、「継続的安全性向上」は事業者・規制の合い言葉として使われてきたが、**継続的安全性向上の意義と実績は様々なステークホルダーにどの程度理解・共有されただろうか。**
- 本企画セッションの目的は、様々なステークホルダーの観点から継続的安全性向上について改めて考え、今後**よりよい形で安全性の向上に取り組むための方向性を見いだす**ことにある。



議論したい内容

- 中心となる「問い」: 科学(1F事故)は社会を変えてきた。では、社会(ステークホルダー)はどのように科学(原子力安全)の形を変えていくことができるか。
- 中心的な論点
 - 継続的安全性向上に対する規制/事業者/立地自治体/社会の動機は
 - 継続的安全性向上に対して規制/事業者/立地自治体/社会はどのような役割としてどのように関わるべきか